

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531173

研究課題名(和文)《郷土の音楽教材 e - ライブラリ》の活用による「地域の音楽文化遺産」伝承の試み

研究課題名(英文) An Attempt to Hand Down Cultural Heritage of Music in Community through Use of e-Library for Teaching Hometown Music

研究代表者

佐川 馨 (SAGAWA, Kaoru)

山形大学・教育文化学部・教授

研究者番号：40400519

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、山形県内の音楽素材を、伝統音楽的音楽素材(民謡やわらべうたなど)、西洋音楽的音楽素材(地域出身の音楽家の作品など)、生涯学習的音楽素材(特色ある音楽活動、音楽施設など)の三つに分類し、それらを学校教育及び社会教育用に教材開発した。また、開発した教材を有効に活用するために、インターネットを活用した<e-ライブラリ>の開設運営、大学における授業実践、市民向け解説付きコンサートに取り組んだ。これにより地域の音楽素材を活用した授業実践の推進と音楽文化遺産の継承が図られた。

研究成果の概要(英文)：In this study, raw materials of music existing in Yamagata Prefecture have been classified into raw materials of traditional music, raw materials of Western type of music, and raw materials of music used for continuing educational purposes, all of which have been developed for use in schools as teaching materials. Also, in order to make these newly developed materials be utilized effectively, the author has involved herself in establishing and administrating an <e-library> using the Internet, actually teaching them in classes at the University, and holding concerts with explanations for the public in this area. In this way, actual teaching of raw materials of music existing in this community has been promoted and at the same time handing down of the cultural heritage of music has been made possible.

研究分野：音楽科教育

キーワード：郷土の音楽 地域の音楽素材 音楽教育 教材開発

1. 研究開始当初の背景

(1) 我が国や郷土の伝統音楽の理解を基盤とした世界の音楽文化の理解は、今次の学習指導要領においても改訂の趣旨の一つとして重視されている。しかし、学校教育における日本の古典音楽にかかわる授業実践は一定の定着が見られるものの、郷土の伝統音楽や地域の音楽素材を取り入れた授業実践は未だ少ない傾向にある。このことは、申請者の調査結果からも明らかである。

申請者は2005年10月から11月および2009年8月から11年8月にかけてA県内の音楽科担当教員を対象に、授業における地域の音楽素材の取扱い状況を調査した(回収率50.6%)。

A県内165校(小78、中51、高36)からの回答では、授業で「郷土の伝統音楽」「地域の音楽素材」を取り扱っているのは、小学校で23.8%、中学校では36.7%、高等学校では22.6%であった。同じ調査の「日本の音楽」の取扱いは、小学校で64.1%、中学校で98.0%、高等学校では67.7%となっており、その取扱いの割合が極めて低いことは明らかである。

「取り扱わない理由」について、小学校では「教材がない」(57.6%)と「時数が足りない」(48.5%)が高い比率となっていた。中学校でも「時数が足りない」(73.3%)ことが大きな理由となっており、教科の目標を効率よく達成できる教材開発と指導のサポートがなされれば取り組みが増えることが期待される。

高等学校では45.8%が「教材がない」ことを最も大きな理由としているが、「他の内容に力を入れている」(37.5%)という回答の比率も高い。この結果は中学校の回答でも46.6%と高い比率になっており、この背景には教師自身が郷土の伝統音楽や地域の音楽素材にかかわる知識や音楽経験が少なく、価値や教材性を十分に認識していないという問題があると推察される。

このことの解決のためには、教員養成段階での学習や音楽経験が必要となる。しかし、郷土の伝統音楽や地域の音楽素材を取り入れた授業科目を開講している教員養成課程は、管見の限りではあるが少ない状況にある。学校教育における郷土の伝統音楽や地域の音楽素材を取り入れた教材開発や授業実践を推進していくためには、教員養成の段階でそれらに触れることのできるカリキュラムの構築と実践が必要と考える。

(2) 地域連携、地域貢献の推進は大学教育における今日的な課題の一つである。「地域に開かれた大学」「地域とともに歩む大学」として地域社会との結び付きを深めていくことが、これまで以上に強く求められる。大学教員の専門性に基づいた「知」と「技」を活用した地域貢献はもちろんのこと、これからは学生が学びの成果を社会に還元していく機会を持つことも大切となる。

学生にとっては、アウトリーチの成果のフ

ィードバックが実践力の向上や職業意識の高まりとともに、学内における学びの再確認とその後の学習状況の改善へとつながっていくものとする。また地域にとっては、複雑化する地域の諸問題の解決の手立てを得ることが期待できるであろう。

音楽のアウトリーチは多くの場合、文化施設やNPO団体を中心に組み込まれているが、教員養成の一環としての「芸術普及」「教育普及」の取り組みは、地域貢献の成果とともに大学の音楽科教員養成を補完する働きをもたらすと考える。加えて、地域の音楽素材を活用したアウトリーチは、身近な音楽であること、自分たちの郷土の音楽を活用した地域貢献であることの親近感が、市民に音楽教育の可能性と重要性を再認識させる場となるであろう。

(3) 本研究の学術的な特色は3点ある。第1は、郷土の音楽教材 e-ライブラリ の開設とレファレンス・サービス及び授業実践サポートの実施による「地域の音楽知」の共有化と音楽教育実践への貢献である。第2は、音楽科教員養成における「地域の音楽素材」郷土の音楽教材 を導入したカリキュラムの構築と実践である。そして第3は、「地域の音楽素材」を活用した教材開発と教員志望学生のアウトリーチを連動させた地域の音楽文化遺産伝承の試みである。

特に郷土の音楽教材 e-ライブラリ の開設とレファレンス・サービスは、「地域の音楽素材」を活用した授業実践を推進し、地域の音楽文化遺産の伝承と音楽文化の一層の振興が期待できる。また、教員志望学生による郷土の音楽教材 を活用したアウトリーチは、市民に音楽教育の可能性と重要性を再認識させる場となるとともに、活動成果のフィードバックが大学の教員養成を補完する働きをもたらすと考える。

2. 研究の目的

本研究は、山形県内各地域の音楽素材を伝統音楽的音楽素材(民謡やわらべうたなど)、西洋音楽的音楽素材(地域出身の作曲家の音楽作品)、生涯学習的音楽素材(特色ある音楽活動、音楽施設など)の三つに分類し、それらの教材化と教材を活用した実践を通して学校音楽教育における地域の音楽文化遺産の伝承と時代の要請に応じた音楽科教員養成に資することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では地域の音楽素材を下記の三つに分類する。

：伝統音楽的音楽素材

民謡、お囃子、わらべうたなど

：西洋音楽的音楽素材

地域出身の作曲家による唱歌などの音楽作品

：生涯学習的音楽素材

県内各地の特色ある音楽活動、音楽施設、

音楽系部活動など

その上で、下記に示す) ~) の三つの実践に取り組む。

) 地域の音楽素材による教材開発および郷土の音楽教材 e-ライブラリ の開設と運営

- ・学校教材用の映像資料、音源、解説、編曲教材の開発
- ・学校現場の教員がウェブ(Web)上から教材データの入手ができるシステムの構築

・必要に応じたレファレンス・サービスと授業実践サポートの実施

) 郷土の音楽教材 を導入した教員養成カリキュラムの構築と実践

- ・開発した教材を活用した学部・大学院の授業実践による教材の有効性の検証と指導法の開発

・教員養成の場からの地域の音楽文化遺産の伝承と教材の改善

) 郷土の音楽教材 を活用した教員志望学生のアウトリーチ・プログラムの開発と実践

- ・教員志望学生による近隣の学校および地域における鑑賞教室、解説付きコンサートの実施
- ・開発した教材の活用と有効性の検証と改善

これらの研究計画のうち) については、民俗芸能がお盆、農閑期など特定の時期に行われることが多いため、現地取材調査は年度計画で進める。また、該当の地域の音楽教育研究会所属の教員に取材の協力を求める。

) については、実技担当教員(研究分担者)との協力体制が重要となるため、早い段階からのカリキュラム構築と既存の授業内容との調整を図る。

) については、学生の教員志望の校種や専攻内容に配慮した内容とし、アウトリーチによる地域貢献が学生自身の実践力や職業意識の涵養につながるようにする。

また、研究を計画どおりに着実に進めるために、研究代表者の総括の下、各取り組みを主務とサービスによる複数体制とする。

4. 研究成果

本研究の主な研究成果は、収集開発した地域の音楽素材を収集整理した資料及びデジタルデータ化した教材資料による <e-ライブラリ> の開設運営、ライブラリの資料を活用した学部、大学院における授業実践、ライブラリの教材を活用したアウトリーチ実践の3点である。

については関連する資料を整理・分類して学内に保管しており、関係者の希望に応じて閲覧できるようにしている。また、著作権等の制限がないものや録音資料、開発した教材についてはデジタル化してweb上で閲覧で

きるように作業を進めている。

資料名の一覧は、関係のホームページである <郷土の音楽教材 e-ライブラリ> に掲載した。開発した教材は著作権の関係で一部の紹介に留まっており、今後の充実が課題である。

については、学部の「音楽文化入門」「音楽」「保育表現(音楽)」「指揮法」「音楽科教育法」の各授業で地域のわらべ歌、山形ゆかりの作曲家の作品を教材として取り上げた。

いずれの授業においても教材に親近感をもって接している様子がうかがわれ、受容的な態度形成が学習意欲の高まりをもたらすことが確認された。また、音楽作品を媒介として地域を理解しようとする態度形成も見られた。地域にかかわりのある作曲家の作品や民俗芸能等は、大学の授業においても一定の有用性をもつことが確認された。

については、市民向けコンサート、学校訪問コンサートで山形ゆかりの作曲家松島彝の作品を取り上げた。県内において認知度が高まりつつあるので、継続的に演奏していくことによって地域の音楽遺産の一つとして継承されるよう努めたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

佐川馨、小田島樹人の生涯と教育実践、音楽表現学、査読有、12巻、2014、27-36

佐川馨、小田島樹人研究(一)『音楽秋田』の論説に見る音楽観、音楽教育観一、山形大学紀要、査読有、16巻1号、2014、17-28

〔学会発表〕(計3件)

佐川馨、二つの県民歌—秋田県民歌制定の背景一、わらび座研修会、2014.12.27、わらび座

佐川馨、秋田県民歌の謎、倉田正嗣生誕120年記念コンサート、2014.9.24、大仙市中仙市民会館

藤野祐一、佐川馨、松島彝の生涯と歌曲、第76回明治ホールコンサート、2013.12.22、東田川文化記念明治ホール

〔演奏発表〕(計25件)

藤野祐一、オペラ・プロムナード vol.12 ~ オペラの散歩道 ~、山形オペラ協会、2015.2.15、富岡本店階(山形)

渡辺修身、山響「アマデウスへの旅」定期演奏会 Vol.24、2015.2.14、山形テルサホール(山形)

渡辺修身、年末プレミアム 2DAYS、山形交響楽団、2014.12.28、山形テルサホール(山形)

渡辺修身、年末プレミアム 2DAYS、山形交響楽団、2014.12.27、山形テルサホール(山形)

形)

渡辺修身, 藤野祐一, 第 65 回山形大学地域教育文化学部音楽研究会定期演奏会、2014.12.6、山形テルサホール(山形)

佐川馨, 合唱の祭典、国民文化祭あきた、2014.10.26、秋田県民会館大ホール(秋田)

藤野祐一, 声楽アンサンブルコンサート、山形県華道文化協会、2014.9.26、山形グランドホテル(山形)

藤野祐一, ガラコンサート~あふれる愛の物語~, 山形オペラ協会、2014.8.30、山形市中央公民館ホール(山形)

渡辺修身, 山形県立寒河江高等学校吹奏楽部第 50 回記念定期演奏会、2014.6.8、寒河江文化会館ホール(山形)

藤野祐一, 山形県男声合唱祭、山形県男声合唱連盟、2014.4.13、希望ホール(山形)

藤野祐一, ガラ コンサート~楽しいぞ! オペラいいとこどり~, 山形オペラ協会、2013.12.14、山形市中央公民館ホール(山形)

藤野祐一, オペラ・プロムナード vol.11 ~ オペラの散歩道~, 山形オペラ協会、2013.11.10、富岡本店(山形)

佐川馨, 市民のための音楽鑑賞講座『管弦楽の楽しみ方』、2013.10.17、秋田市文化会館大ホール(秋田)

渡辺修身, 藤野祐一, 第 64 回山形大学地域教育文化学部音楽研究会定期演奏会、2013.10.14、山形テルサホール(山形)

渡辺修身, 山響「アマデウスへの旅」定期演奏会 Vol.20、2013.10.5、山形テルサホール(山形)

藤野祐一, オペラ・プロムナード vol.10 ~ オペラの散歩道~, 山形オペラ協会、2013.9.15、富岡本店(山形)

渡辺修身, 山形交響楽団第 230 回定期演奏会、2013.7.20.21、山形テルサホール(山形)

藤野祐一, オペラ・プロムナード vol.9 ~ オペラの散歩道~, 山形オペラ協会、2013.6.30、富岡本店(山形)

渡辺修身, 山形大学地域教育文化学部音楽研究会第 17 回 YCM オペラ公演、2013.3.2、遊学館ホール(山形)

渡辺修身, 山響「アマデウスへの旅」定期演奏会 Vol.18、2013.2.16、山形テルサホール(山形)

²¹渡辺修身, 山形交響楽団第 224 回定期演奏会、2012.11.23.25、山形テルサホール(山形)

²²藤野祐一, オペラ・プロムナード vol.8 ~ オペラの散歩道~(独唱), 山形オペラ協会、2012.11.11、富岡本店(山形)

²³渡辺修身, 藤野祐一, 第 63 回山形大学地域教育文化学部音楽研究会定期演奏会、2012.10.14、山形テルサホール(山形)

²⁴渡辺修身, 山形交響楽団第 222 回定期演奏会、2012.7.19、山形市民会館(山形)

²⁵藤野祐一, オペラ・プロムナード vol.7 ~ オペラの散歩道~(独唱), 山形オペラ協会、2012.6.24、富岡本店(山形)

〔その他〕

ホームページ等

山形大学音楽教育研究室 < 郷土の音楽教材 e-ライブラリ >

<http://mem-yamagata-u.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐川 馨 (SAGAWA, Kaoru)

山形大学・地域教育文化学部・教授

研究者番号: 40400519

(2) 研究分担者

藤野 祐一 (FUZINO, Yuuiti)

山形大学・地域教育文化学部・教授

研究者番号: 70199355

渡辺 修身 (WATANABE, Osami)

山形大学・地域教育文化学部・准教授

研究者番号: 70333945